

Monthly Report

Vol.78 / 2012 Oct.

「第2回2012東北こども博」盛況裏に終了



10月6日(土)、7日(日)に本学を会場にして、震災で被災した子ども達に、おもちゃやスポーツを楽しんでもらうイベント「第2回2012東北こども博」(主催:東北こども博実行委員会、文部科学省など後援)が昨年に引き続き開催されました。両日天气が心配されましたが、天候にも恵まれ、昨年を上回る15,900人(昨年13,800人)の方々にご来場頂きました。

6日(土)のオープニングセレモニーでは、東北こども博実行委員長である朴澤学長より「未来を担う子ども達が希望を持ち、元気になれるよう大学全体として支援していきたい」と挨拶があり、また、震災を乗り越えた亘理町立荒浜小学校の児童による郷土芸能の「荒浜ぶちあわせ太鼓」が披露され、勇壮な太鼓の迫力ある響きで幕が上がりました。2日間、キャラクターによるショー、最新のおもちゃやゲームが体験できる「トイホビー」、手軽で楽しいスポーツ体験や親子でプラズマカーなどに挑戦できる「スポーツ」、屋台などが並ぶ「お祭り」の3つのエリアで構成された多彩なイベントで各会場盛り上がりを見せていました。

400名を超える本学の学生ボランティアをはじめ、明成高校及び柴田高校の生徒ボランティアにもご参加頂き、東北こども博を支えました。



目次

第2回2012東北こども博	1
事務局人事異動	2
ウォームアップジャパン From Tokyo in セツ	3
かふえDEわくわく健康づくり がJR船岡駅にオープン	4
台東大学からの留学生	5
2012仙台大学大学祭	6
OB・学生の活躍	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

事務局人事異動（平成24年10月1日付）

10月1日付で事務局の人事異動がありました。異動先は、右表の通りとなっております。



新所属	(旧所属)	氏名
庶務課長	(事業戦略室担当課長)	菊地太一
庶務課担当課長	(庶務課長)	伊藤弘行
教務課長	(教務課担当課長)	庄子直剛
入試創職室担当課長	(教務課担当課長)	三浦伸二
入試創職室担当課長	(大学院事務室担当課長)	吉田孝志
広報室担当課長	(入試創職室担当課長)	渡辺誠司
予算管理課担当課長	(会計課担当課長)	吉田 茂
教務課担当課長	(広報室GM)	伊東宏之
会計課主幹	(予算管理課主幹)	梅森智子
大学院事務室主幹	(教務課主幹)	佐藤裕子
教務課	(入試創職室)	鈴木将士
事業戦略室	(教務課)	石森靖明

学生支援室のインターカーとして石澤和子さんが着任



菅野すゑさんの後任として、10月1日付で学生相談室のインターカーいしざわかずこに石澤和子さんが着任しました。石澤さんからご挨拶の文を頂戴しましたので、ご紹介します。

「このたび、学生相談室のインターカーの担当をさせて頂くことになりました石澤和子です。これまで、臨床心理士として、病院や児童相談所では、心理検査の業務を行ってきました。

また、スクールカウンセラーとして中学校では生徒や保護者の皆様と関わった経験がありますが、ここ数年は心理業務から離れておりました。今回、大学の学生相談室での勤務というのは、私にとって初めての経験になります。これまで経験した現場との違いや、戸惑い、不慣れな面があり皆様にご迷惑をかける場面もあるかと思えます。少しでも、学生の皆様が快適に大学生活を過ごせるように、また一日も早く諸先生方や職員の皆様のお役に立てるように、一つ一つ積み重ねて参りたいので、ご指導の程宜しくお願い致します。」

学生相談室は、月曜日～金曜日までの11時～17時まで業務を行っています。

宮城県経営者協会仙南支部が視察研修（仙台大学訪問）

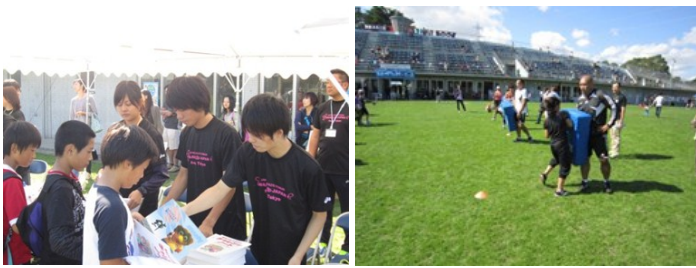


10月4日（木）にKMCH大会議室において宮城県経営者協会仙南支部（支部長：東北リコー顧問の敦賀博氏）の10名が来訪し、佐藤滋副学長から「言語コミュニケーション・第二言語習得の言語認知科学（言語現象の脳活動のMRI的研究）」と題したミニ講話が行われ、言語脳科学研究の一端が紹介されました。参加した方からは、「我々が今まで学んだことのない世界の重要なお話に感銘を受けた」という声がありました。

また、高橋政志事務局長代行及び半澤事業戦略室担当課長からは、大学の概要や国際交流・地域連携等の取組みについて説明がなされました。そして最後に、菊地太一庶務課長が、学内の施設・設備を案内しました。

体育の日イベント

ウォームアップジャパンFrom Tokyo スポーツフェスタ in 七ヶ浜



10月8日(月・祝)体育の日に、七ヶ浜町において、一般社団法人日本アスリート会議と東京都が主催するスポーツを通じた被災地支援事業である「ウォームアップジャパンFrom Tokyoスポーツフェスタ in 七ヶ浜(主管:七ヶ浜町スポーツフェスタ実行委員会)」が開催され、本学の学生たちも運営サポートスタッフとして活躍しました。「ウォームアップジャパンFrom Tokyo」の活動は、今年2月には本学を会場に亘理町・山元町の中学校運動部活動支援として実施しました。学生たちは運営スタッフやプログラムのサポートを経験させていただくことで沢山の学びを得たようです。

当日は天候にも恵まれスポーツの秋にふさわしい晴天の下、サッカー、ラグビー、ハンドボールの元日本代表選手らによる「アスリートとボールで遊ぼう!」のプログラムに約200名の地元七ヶ浜の小学生たちが参加し、スポーツを通じてこちよいい汗を流しました。

(ウォームアップジャパンFrom Tokyo

実行委員 馬場宏輝 生涯学習センター長)



ひぐちはるか

樋口遥さん(新潟・三条東高校出)
(体育学科スポーツマネジメント・コース4年:馬場研究室)

参加者と保護者あわせて200名以上が参加した今回のイベントには、運営スタッフとしてかかわりました。

参加した子どもたちは、はじめてラグビーボールやハンドボールに触ったりプレーしたりと新しい競技の興味も膨らんだようでした。震災からの復興を「スポーツ」を通じサポートすること、異世代との関わりを持てることはかけがえのない経験だと感じています。

体育学科長・仲野教授にNHKから取材

10月11日(木)、NHK仙台放送局「てれまさむね」から体育学科長・仲野教授に取材がありました。取材内容は、10月13日(土)~16日(火)まで行われた「第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会 ねんりんピック宮城・仙台2012」と同時開催された「みやぎ元気フェスティバル」の際に設けられたニューススポーツのコーナーについてでした。

「てれまさむね」の取材当日には、子どもからお年寄りまで誰でも気軽に参加できるニューススポーツとして、仙台大学第一体育館に「ユニカール」と「ラダーゲッター」が設けられました。同フェスティバルでニューススポーツのコーナーを担当する仲野教授にリポーターがルールを教してもらいながら、本学学生と共に2種目を体験しました。

この様子は、10月12日(金)18時10分~19時の「てれまさむね 週末ドコ行こ!？」で5分程度放映され、学生の楽しくハツラツとした場面も多くみられました。

なお、広報室でVTRを録画してありますので、ご覧になりたい方はお知らせ下さい。



みやぎまるごとフェスティバル2012



10月13日(土)・10月14日(日)の2日間、仙台市の宮城県庁及び勾当台公園を会場に、宮城県をまるごと楽しむことのできる食の祭典『みやぎまるごとフェスティバル』が開催され、本学からも運動栄養学科の学生9名と丹野准教授及び菊地・服部・真木・佐藤幸子・堀江の各新助手が参加しました。

本学の参加は今年度で6年目となり、宮城県からの依頼で『キッズ食育パーク』というコーナーを運営しました。子どもと子育て世代に向けて、「見て」「触れて」「調理して」「食べる」などの体験を通して、食の楽しさを伝えるというテーマのもと、①「箱の中身はなんだろう？」という食材当てゲームや、②「親子でCooking□栄養満点ベジタブルケーキ！」という子どもが楽しみながら、簡単な調理体験をすることで、食への興味や関心を高められるような内容を実施しました。



特に、調理体験コーナー(1日限定100食)は大盛況で、順番待ちの列ができるほどでした。訪れた方々からは、「実際に子どもが調理を体験する機会は少ないので、素晴らしい企画ですね。」などとお褒めの言葉を頂きました。また、参加した学生達もたくさんの子どもの笑顔に囲まれ、貴重な体験となったようです。今後も仙台大学発信の食育への取り組みは地域にとって重要なものとなっていきそうです。(報告：菊地志織新助手)

【運動栄養学科参加学生一覧】

NO	氏名	学年	出身高校
1	佐々木文	4年	水沢高校
2	及川美雪	3年	東北高校
3	尾崎華穂	3年	宮城広瀬高校
4	数又美穂	3年	白石女子高校
5	城戸香菜恵	3年	富岡高校
6	黒田晴音	3年	仙台西高校
7	阿部佑哉	1年	古川黎明高校
8	大波千浩	1年	福島商業高校
9	長田実子	1年	相模原女子大学高校

「かふえDEわくわく健康づくり」がJR船岡駅にオープン



「筋カトレニング」(10月17日)の様子

10月10日～10月31日の水曜日(計4回)、14:30～16:00まで船岡駅2Fコミュニティプラザで本学の健康づくり運動サポーター事業及び同サポーター上級者向けの実習の一環として、本学の学生が企画した「健康かふえ」がJR船岡駅にオープンしました。

この企画の目的は、柴田町にお住まいの方々を対象に、健康に関する講話や自宅でも簡単にできる運動を紹介・体験してもらうことにより、健康水準を向

上させることにあります。また、この企画は、本学学生^{いずみさち}の泉幸さん(健康福祉学科4年-米沢中央高校出)、田中亮^{たなかりょう}さん(健康福祉学科3年-新潟・村上桜ヶ丘高校出)、金山瑠里^{かみやまり}さん(健康福祉学科3年-聖ドミニコ学院高校出)、後藤璃帆^{ごとうりほ}さん(健康福祉学科3年-山形・九里学園高校出)の4名が、自らの力で発案し、実施していくプログラムです。泉さんは「地域の方々と関わって嬉しい。前回の反省を踏まえ、良いプログラムにしたい。」、金山さんは「やり甲斐がある。継続することの大変さを痛感している。」、田中さんは「自分たちで準備して、企画運営する大変さを改めて感じている。参加者アンケートの中の良かった・楽しかったという言葉が支えになっている。」、後藤さんは「参加者の健康に対する意識の高さを感じている。もっと勉強して、自分を高めながら指導がしたい。」と目を輝かせながら話していました。

台東大学(台湾)からの留学生



左から林准教授、李政欣さん、許さん、朴澤学長、李尚諭さん、韓さん、余さん

10月23日(火)、国際交流協定校の台東大学(台湾)からの交換留学生5名が、林准教授と共に学長室を訪れました。李政欣(リチュンシン)さん、許晉璋(キョチンウェイ)さん、李尚諭(リシャンイ)さん、余亭儀(イテンイ)さんの4名は、1年間学部の科目等履修生として学びます。また、韓啓倫(ハンチンルン)さんは、2年間、ダブルディグリー制度により本学で学位取得を目指します。

台東大学と仙台大学は、平成19年に「学部学生教育に関する協定書」を締結し、ダブルディグリー制度を含めた学生間交流の進展を図ってきました。平成23年には台東大学からの留学生2名が既にダブルディグリー制度により本学で学位を取得しております。

「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

—ハワイ州立大学ムラタ教授のご両親来学—



前列右から三番目がフェイさん、二番目がロバートさん

10月23日(火)、本学A棟2階大会議室において、本学学生の「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」が開催されました。今回は、健康づくり運動サポーターとして、初級6名、中級1名に加え、今年5月に認定された認定者25名(初級21名、中級4名)の授与式も併せて行われました。

現在、上級資格の取得を目指して、4名の学生が10月10日(水)からJR船岡駅にオープンした「健康かふえ」の企画運営を行っています。

また、ハワイで約20年間高齢者向けに運動プログラムを実践され、静岡で実演するために来日されていたハワイ州立大学(本学学生がアスレチックトレーニング研修を実施)のネーセン・ムラタ教授のお母様であるフェイさんとお父様であるロバートさんが来学され、ゲストとして、同授与式に出席されました。

同授与式終了後は、ムラタご夫妻に、本学で推進している高齢者向けの運動プログラムを横山新助手が披露し、フェイさんに体験して頂きました。さらに、フェイさんがハワイで高齢者向けに実践している運動プログラム「チェア・エクササイズ」を本学学生にご紹介下さるなど、学生との交流も図られた有意義なものとなりました。

なお、昼食には、本学とタレント発掘・育成事業で連携協力している北海道美深町産のかぼちゃを使用し、本学運動栄養学科の学生が作ったサンドウィッチが振る舞われました。



高齢者向けの運動を実演するフェイさん

2012仙台大学大学祭



10月27日（土）、28日（日）の2日間、仙台大学大学祭と毎年恒例同時開催されているスポーツフェスティバルin柴田が催されました。2日目（28日）の午後からはあいにくの雨模様となりましたが、両日たくさんの方々にご来場頂き、誠に有難うございました。

今年の大学祭のテーマは、「笑 time in 仙台大」で、大学祭実行委員会らが中心となって企画運営を行いました。目玉イベントのET-KINGのライブでは大いに盛り上がり、オリンピック招致活動の一環としてお招きしたゲストの岩本亜希子さん（4年連続オリンピック出場、ボート競技）と藤井郁美さん（北京パラリンピック出場、車椅子バスケット）のトークショーでは、お二人のオリンピック・パラリンピックに対する情熱や決意の固さが

が伝わり、興味深いお話に引き込まれました。さらに今年度は、仙台大学開学45周年記念事業の一つとして、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校よりラルフ・ローゼニック博士をお招きし、健康と疾患における運動科学の役割についてご講演を頂きました。会場が満席となり、立ち見の方が出るとほどの盛況ぶりでした。同大学で来年2月に本学学生のスポーツ栄養&スポーツマネジメントに関する研修を実施予定です。

また、スポーツフェスティバルin柴田では、柴田町親善ゲートボール大会やキッズ・サッカーなど、老若男女の町民の方々が多数参加され、それぞれの大会でも大いに賑わいました。

女子サッカー部「インカレ東北地区予選」3連覇達成



左から朴澤学長、山田主将、泉副主将、黒澤監督

女子サッカー部が全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）東北地区予選を圧倒的な強さで全勝優勝しました。同予選で3連覇を達成した黒澤尚

やまだあや
監督、山田綾主将（運動栄養学科4年－東北高校
いずみちさと
出）、泉知里副主将（健康福祉学科4年－富岡高校出）が10月5日（金）、優勝の報告に学長室を訪れました。黒澤監督は、「昨年のインカレではベスト16で敗退しましたが、今年はベスト4を目指したい」と決意のほどを語っています。「1試合1試合勝ちにこだわって上を目指したい」（山田主将）。「チーム一丸となって試合に臨みたい」（泉副主将）。今年のインカレでは、東北の代表としての活躍を大いに期待しています。

全日本大学女子サッカー選手権大会は、12月26日（水）からはじまります。皆様ご声援を宜しくお願い致します。

「ぎふ清流国体」で本学OB・OG・学生が大活躍



男子バレーボール部

9月29日（土）～10月9日（火）まで熱戦が繰り広げられた「ぎふ清流国体」において、大元英照選手（ア
おもとひでき
イリスオーヤマ－H18年体育学科卒－塩釜高校出）がボートの成年男子ダブルスカルで優勝。

さとうわか
佐藤若菜選手（宮城教員クラブ－H22年体育学科卒－相馬東高校出）が成年女子ハンマー投げで2位。本学男子バレーボール部が成年男子で5位という好成績を収めました。その他にも数多くの本学OB・OG・学生が選手や監督、役員として大活躍した国体となりました。

10月10日（水）、大元選手の所属するアイリスオーヤマのボート部報告会に、朴澤学長及び本学ボート部の石森コーチの2名が出席し、同選手の優勝を称えました。



OB大元英照選手



OG佐藤若菜選手

佐藤選手は10月10日（水）に学長室を訪れ、国体2位の報告を行いました。同選手は「仕事と競技をバランスよく行い、次は日本一を目指したい」と今週末に行われる実業団・学生対抗陸上競技大会への抱負を述べました。

男子バレーボール部の山内部長、石丸監督、国体選手一同が10月10日（水）に学長室を訪れ、国体5位（本学は大学単独チームとして出場）の報告を行いました。石丸監督は、「ディフェンス力とサーブ力を強化して、次は全日本インカレでベスト8以上を目

おだぎりりょうま
指したい」。小田切亮磨主将（体育学科4年－弘前工業高校出）は、「レシーブ力を上げ、東北大学リーグの6連覇と全日本インカレで上位進出をねらいたい」と今後の課題と抱負について述べました。

これからの本学OB・OG・学生の活躍にご注目ください。

硬式野球部 我妻真太郎さん、首位打者獲得



平成24年度仙台六大学野球秋季リーグ戦は、本学硬式野球部は三位という結果に終わりましたが、一方、我妻真太郎さん（体育学科3年－山形中央高

出）が打率.395で首位打者と遊撃手で自身初のベストナイン、最多盗塁(8個)の3つのタイトルをいずれも初めて獲得しました。首位打者のタイトルはリーグの数ある栄冠の中でも、個人タイトルとしては最高の栄誉といっても過言ではありません。3つのタイトルを獲得し、新チームの副主将を務める我妻さんは、「仙台大には切磋琢磨する良い環境があったので、首位打者という結果が残せた。名誉ある賞を獲れて正直嬉しい」と喜び、「来春は、神宮（全日本大学野球選手権大会）に絶対に行きたい」と決意を述べました。

ぼばこうじろう

また、本学からは馬場康治郎さん（体育学科3年－利府高校出）が打率.394で首位打者の我妻さんに一歩及ばず二位と一塁手で初のベストナイン、伊東慎也さん（体育学科3年－仙台育英学園高校出）も外野手で初のベストナインを受賞しました。

全国障害者スポーツ大会 加藤由希子さん、100mと砲丸投げの2種目で優勝

10月13日(土)～10月15日(月)まで開催された「第12回全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)」に出場した加藤由希子さん（陸上競技部所属、健康福祉学科1年－気仙沼女子高校出）が、陸上競技の100mと砲丸投げの2種目で優勝を果たしました。加藤さんは、左手が義手のアスリートとして同大会に出場。砲丸投げでは、大会新記録で優勝を飾りました。今後の目標は、「日本学生陸上競技個人選手権（インカレ）の出場と2016年に開催されるリオデジャネイロパラリンピックの出場」ときっぱり。

将来は、特別支援学校の教員を目指しており、「生徒にスポーツの楽しさや頑張ることの大切さを伝えたい」と夢を語りました。



日本卓球協会トレーナー 本学OBの田中礼人さん来訪



左から朴澤学長、田中さん、鈴木副学長

10月19日(金)、ロンドンオリンピックに卓球の日本男子チームのフィジカルトレーナーとして帯同

たなかあやと

した本学OBの田中礼人（H18年体育学科卒－埼玉栄高校出）さんが学長室を訪れ、同オリンピック終了の報告を行いました。

卓球の日本男子チームは、団体戦で5位、個人戦で5位と9位という卓球の日本男子チームオリンピック過去最高の好成績を残しました。

田中さんは、フィジカルトレーナーとして、選手が本番で最高のパフォーマンスを発揮できるように体力の向上と怪我の予防という非常に重要な役割を担いました。「オリンピック独特の雰囲気を感じることができた。今大会で学んだことや悔しさを忘れずに、次のリオデジャネイロオリンピックでは必ずメダルが取れるように貢献したい」と力強く語ってくれました。

仙台六大学野球秋季新人戦 優勝



10月21日(日)、仙台六大学野球秋季新人戦決勝で、仙台大が2-1で東北福祉大を下し、見事優勝を果たしました。

仙台大は、5回に加藤^{かとう}大地^{だいち}さん（体育学科2年－東海大望洋高校出）と内藤^{ないとう}諒^{りょう}太^たさん（体育学科1年－作新学院高校出）のタイムリーで2点を先取。先発の野口^{のぐち}亮^{りょう}太^たさん（体育学科2年－前橋商業高校出）は7回2/3を無失点で抑え、7回2死1・2塁からリリーフした根本^{ねもと}貴^{たかし}志^しさん（体育学科2年－双葉翔陽高校出）が

粘り強いピッチングを見せ、東北福祉大打線を1点に抑え、勝利をおさめました。

今回の秋季新人戦では、3年生部員全員が全試合応援に駆け付け、大声援を送り、まさに、全員野球で掴み取った優勝となりました。

準決勝の東北学院大戦で完封勝利し、決勝でも素晴らしい投球を見せた根本さんは、「新チームになって優勝を目指して頑張ってきた。有言実行できて良かった。」と喜びをかみしめ、「春季リーグ戦は優勝して、神宮（全日本大学野球選手権大会）でも勝ちたい。」とさらなる飛躍を誓っていました。

引き続き、仙台大硬式野球部への声援を宜しくお願い致します。



左：根本さん、右：野口さん

東北地区女子サッカー選手権大会 準優勝



10月20日（土）、21日（日）の2日間、河北旗争奪第31回東北地区サッカー選手権が宮城県サッカー場で開催されました。前年度優勝チームは主催者推薦として予選免除のため、仙台大女子サッカー部は本大会からの出場となりました。

初戦は、水沢UFCプリンセス（岩手）に8-0で快勝。翌日の準決勝は、FCべにばな（山形）に2-0と順調に勝利し、決勝へコマを進めました。

決勝では、3年連続同様、聖和学園高校（宮城）と対戦。高校生には「絶対に負けられない」というプレッシャーを抱えながら、試合に臨みました。

仙台大は、立ち上がりから押し気味に試合を進めましたが、前半18分に先制点を聖和学園高校に奪われると、後半8分にも追加点を取られ、0-2で試合終了。本学は、相手を上回るシュート9本を放ちながらも無得点。惜しくも準優勝に終わり、大会2連覇を逃しました。

今大会を振り返り、黒澤監督と本多コーチから次のようなコメントが寄せられました。

「絶対に負けられないというプレッシャーの中で最後まで諦めずに戦ってくれた選手全員を誇りに思う。敗因は必ず勝つという執念を選手に伝えきれなかった監督の自分にあり、責任を強く感じている。インカレに向けてあらゆる面で細部を突き詰めこの悔しさを晴らしたい」（黒澤監督）。

「結果は負けてしまったが、仙台大女子サッカー部にとっては収穫の多い大会だった。インカレに向けて気持ちを切り替え、必ず結果を残したい」（本多コーチ）。

次の試合は、12月26日（水）からはじまる「全日本大学女子サッカー選手権（インカレ）」になります。引き続き、応援を宜しくお願い致します。

女子柔道部 ベスト8の壁破れず



※写真提供：東建コーポレーション(株)「柔道チャンネル」

10月27日(土)、平成24年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会が、ベイコム総合体育館(尼崎市記念公園)で開催されました。

仙台大女子柔道部は、同大会が始まって以来、4年連続4度目の出場となりました。

初戦(2回戦)は、五味奈津実さん(体育学科4年-東京・藤村女子高校出)・岩瀬輝衣子さん(体育学科4年-愛知・大成高校出)・渡邊悠季さん(体育学科4年-田村高校出)ら、今大会が大学生活最後の大会となる4年生の活躍で、関東の強豪、国際武道大に4-1で勝利し、4年連続で準々決勝(ベスト8)にコマを進めました。

勝てば初のベスト4(準決勝)進出が決まる準々決勝の対戦相手は、前年度優勝校で大会3連覇を狙う環太平洋大。瀬戸美里さん(体育学科3年-東北高校出)が何とか引き分けに持ち込む粘りを見せましたが、圧倒的な強さを誇る相手に実力差を見せつけられ、トータル0-6の完敗。またしてもベスト8の壁を破ることはできませんでした。

この敗戦をバネにして、次の大会に向けて更に精進していきますので、引き続き、仙台大女子柔道部へのご声援を宜しくお願い致します。

JR仙台駅2階のクリックビジョンがリニューアル



10月1日(月)から、本学をPRするJR仙台駅2階のクリックビジョン(15秒看板)のデザインがリニューアルしました。

次回リニューアルは、平成25年4月1日を予定しております。大学及び学科紹介に使用されたい画像・写真やクリックビジョンに関するアイデア等がございましたら、広報室までお寄せ下さい。